

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 27 年 12 月 1 日

所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生 1 年
氏名	齋藤 美保

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)

沖縄県西表島

2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)

西表島視察

3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)

平成 27 年 11 月 26 日 ~ 平成 27 年 11 月 30 日 (5 日間)

4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)

琉球大学 熱帯生物圏研究センターの職員の方々、松沢先生、湯本先生、幸島先生、滝澤先生

5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果: 長さ自由)

写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

今回の実習は琉球大学の協力の元、西表島を広く視察し、亜熱帯の生態を理解することを目的として視察を行った。

■トレッキング

浦内川の下流からボートに乗り、マングローブ林の間を進み、途中でボートを寄せて岸におりそこからは徒歩でマリユドゥ、カンビレーの滝を目指した。マングローブ林を間近で観察することが今までなかったため、今回はヒルギの種類(ヤエヤマヒルギ、メヒルギ、オヒルギ)や、ヒルギがどのような順番(ヤエヤマヒルギが一番水際でその奥がオヒルギ)で水際から岸部まで生息しているのかわかるいい機会になった。また満潮の時には水に隠れて見えなかったマングローブ林の気根が、水が引いた後にはたくさん現れ、あちこちでポコポコと顔を出している様子は面白い光景であった。気根が地中でどのように発達しているのか、それぞれの気根が一体どの幹に属しているのか一度掘り出して観察してみたいと思った。水が引いた後には、シオマネキやハゼ、貝が干潟にたくさん現れ、彼らの動きをじっくり見て飽きることがなかった。

ボートから降り滝に向かう道中ではシダの新芽をヒカゲヘゴのような樹皮が面白い模様を呈している姿を観察したり、日本の亜熱帯を代表する西表島で、本州ではあまり目にするの植物を目にする事で貴重な経験が出来た。



写真 1. 潮が引いた後のマングローブ林。
気根があちこちに見られる

■イリオモテヤマネコ保護センターと展示林の見学

イリオモテヤマネコに関して今まで詳しい情報を知らなかったが、今回保護センターを訪れ、彼らの推定生息頭数が 100 頭ほどであることに驚いた。また、パネル展示で個体識別をされてきた多くの個体が交通事故によって死亡するケースが多いことを知り、イリオモテヤマネコが直面している問題をよく知ることが出来た。テレメトリーを付けるなどして、各個体の詳細は遊動域や生息地を知ることが出来れば、さらにイリオモテヤマネコに関する詳細な情報を得ることが出来そうだが、そのような取り組みがなされているのかわからなかった。また、今後どのように交通事故死対策を立てていくのか、繁殖に向けてどのような取り組みがなされているのかわからなかったので(展示を見逃していたのかもしれない)、私自身でも情報を集めていきたい。

展示林では主にユーカリとアカシアを育てているそうだが、台風の影響でアカシアはなかなか育たないそうだ。マホガニーやチークといった有名な材木も台風の影響でなかなか生育しないと職員の方にご説明していただいた。後日琉球大学の渡辺先生に台風のビデオを見せてもらったが、本州で見る台風とは全く威力が異なっていた。本州だと台風の中でも近場であれば外出することもありますが、そのようなことが出来ないほどの威力だと知り、西表島で暮らす上で台風とどう付き合っていくかを考えることは非常に重要だと感じた。展示林にはマンゴーの木が育っていたが、タンザニアで見るマンゴーの木よりも葉が少なく、枝も細く、どこことなく貧弱な感じがしたが、それもまた台風の影響なのかなと感じた。

■シュノーケリング

浜辺から少し泳いただけでも、ボラの群れや大小、色とりどりの魚の群れ、イソギンチャクなど多様な生物を観察することが出来た。夏よりも冬のほうが水は澄んでいるようで、今回寒かったが海に入って海生生物を観察することが出来て良かった。また今までお土産でも買ったことのある星の砂が実は有孔虫の殻だということを知って驚いた。浜辺のほとんどの砂がこの殻で構成されており、一

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

体何十年前からの殻が堆積しているのかふと疑問に思った。

■カヤッキングとトレッキング

幸い天気にも恵まれ無事楽しみにしていたカヤッキングをすることができた。カヌーを今までしたまともに漕いだことがなく帰るころには両手に豆ができた。しかし、一日目では間近に見ることのできなかつたマングローブ林を間近に観察でき、景色を楽しみながら漕ぐことが出来た。一日目に不思議に思ったマングローブ林の気根を見せていただいた。水に浸かっている部分は柔らかいが、水面から出ている部分は固くなっているという性質があるそうで植物は面白いな、と感じた。しかしなぜ水面から出ている部分は固くなっているのか疑問ではある。またあまり生息していないメヒルギも観察でき、芽の部分が今までの見てきたどの植物とも異なった形をしていた。琉球大学の方によると、好んで生息する場所が限られているらしく、その好む生息場所の要因はなんだろう、と疑問に思った。西田川に入ってカヌーを止め 30 分ほどトレッキングをし、滝を目指した。道すがら見たシダは本州で見えるものよりも大きく、数も多く、またツルも多く以前訪れたボルネオの森に似ているなど感じた。しかし、ボルネオではヒルにたくさん噛まれたが、西表島でヒルに噛まれることはほとんどないらしく、マレーシアの森よりも安心して歩くことが出来た。



写真 2. カヤックでマングローブ林を進む



写真 3. メヒルギの胎生芽

6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS リーディングプログラムの援助を受けて行いました。実習期間中は、車の手配から島内の散策まで、琉球大学の関係者の方々に非常にお世話になりました。様々なプログラムを通して楽しみながら、西表島および亜熱帯の環境への理解を深めることが出来、お世話になった方々にこの場を借りて感謝申し上げます。またご丁寧に指導して下さった先生方、およびプログラム関係者の皆様にも感謝致します。